2021年4月27日

ディクスホールディングス株式会社
代表取締役CEO　戸邊　光男

＜ディクスグループ＞
日本ディクス株式会社
株式会社ｉＴパートナーズ
株式会社ディクスエンジニアリング
ＥＲジャパン株式会社
株式会社エヌステージ

ディクスグループ中期事業計画（概略）

１．中期事業計画策定の背景

当社グループでは、ＩＴの進化や市場の変化に対応すべく、3ヶ年ごとに中期事業計画を策定しており、これまではグループの中核事業会社である日本ディクス株式会社を中心に個社単位で策定し、各々推進して参りましたが、

① 事業シナジーの更なる追求（個社単位から事業単位での経営･運営）

② ホールディング体制の確立（「企業グループとしての価値向上」）、

を目指し、グループ理念ならびに経営指針に基づき、2022年3月期を開始期とした3ヶ年の中期経営計画を策定いたしました。

２．基本方針

（１）グループ理念“ITを通じて社会･企業･個人を繋ぎ『快適で安心できる未来への実現』に貢献していく”の共有

（２）事業単位での成長とＩＴ市場の成長分野（ＤＸ）への注力

（３）グループ経営の強化

３．数値目標

本中期事業計画におきましては、毎期（前同比）110%以上の売上伸長を計画、最終年度には売上7,700百万円、営業利益540百万円（営業利益率7%）を目標といたします。

中期事業計画目標（連結）　（単位：百万円）

	2021年3月期	2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期	
	実績	計画	前同比	計画	前同比	計画	前同比
売上高	5,376	6,173	115%	6,838	111%	7,700	113%
営業利益	155	260	168%	405	156%	540	133%
経常利益	168	260	155%	405	156%	540	133%
当期純利益	38	169	445%	263	156%	351	133%

４．成長戦略

（１）ビジネスモデル変革

①ＩＴ市場の成長分野（ＤＸ Digital Transformation）への注力

後述５に記載の通り、ＤＸ市場規模（市場変化）は当社グループにおいても更なる事業の成長機会と捉え、デジタルマーケティングＣＲＭ・クラウドソリューション・ＲＰＡの推進、ならびに人材育成事業の新設等に取組んで参ります。

②既存ビジネスに対する持続的な利益成長

生産性・収益性の更なる可視化と改善、各種制度の見直しによる人材基盤の強化、更なるパートナーシップの強化等に取組んで参ります。

（２）コーポレートガバナンス変革

ＩＴシステムの見直し・グループ統一、人的資源の全体最適、各種制度の見直し・グループ統一、固定費の削減、働き方の更なる改革等に取組み、「安定経営」の継続・伸長、「健康経営」の実践、「品質経営」の向上の実現を目指して参ります。

５．ＩＴ市場における成長分野（ＤＸ）の状況と当社グループの取組みについて

日本におけるＤＸの市場規模は約８千億円（2019年度）に達しており、2030年度には3兆円超（2019年度の3.8倍）に拡大すると予想されています。

・「2025年の崖」

（企業の既存システムの複雑化・ブラックボックス化等の課題克服ができなかった場合、2025年以降 最大12兆円/年（現在の3倍）の経済損失が発生する可能性がある）

・「少子高齢化に伴う労働人口の減少」

・「働くスタイルの多様化」に加え、

・「新型コロナウィルスの流行によるビジネス環境の変化」により、

ＤＸの取組みが改めて再点火しています。

当社グループは、この市場の変化を更なる事業の成長機会と捉え、ＤＸの実現に必要なデジタル技術要素(※)のうちクラウドを中心に、以下に取組んで参ります。

※デジタル技術要素（人工知能、ビッグデータ、クラウド、サイバーセキュリティ、デザイン思考など）

①労働集約ビジネスから知識集約･サービス提供ビジネスへの変革
（ソリューション・サービスの革新）
②顧客基盤・対応態勢の革新
③社内業務の改革

ＤＸ推進を可視化するため戦略ドメイン売上比率を指標とし、同比率を 10％(2021 年 3 月期)から 30％以上（2024 年 3 月期）に引き上げます。

※当社グループのＤＸ戦略については、改めてお知らせいたします。

以上